

答 辞

今和八年三月のこの佳き日に、私たち二百九十九名は卒業式を迎えることができました。本日は、私たち普通科卒業生のためにこのような盛大で心温まる式を挙げていただき誠に感謝申し上げます。

今、こうして卒業の日を迎え、過ぎ去った三年間を振り返ると、時には立ち止まり、時には迷いながらも、いつも誰かが手を差し伸べてくれた温かさが鮮明に思い出されます。

入学して、初めてのホームルームでは、知らない顔ばかりの教室に圧倒され、緊張のあまり、自分からクラスメイトに話しかけることができませんでした。その時、隣の席の子が明るい声で話しかけてくれました。彼とはすぐに友達になり、彼のおかげで緊張が解け、高校生活という新しい扉を大きく開くことができました。

五月の校外レクリエーションは、毎年、新しいクラスで迎える最初の学校行事でした。浅草での食べ歩きや 横浜での手相占いなど、滅多にない体験を初々しいメンバーで行い、クラスメイトとの絆を深めることができた充実した学校行事でした。

六月には陸上競技会がありました。そこでは、仲間同士で応援し合ったり、普段の授業では見ることのできない仲間の勇姿を目にしたりすることができました。私も仲間の声援と一緒に走ったペアのおかげで決勝の舞台に立ち、全力を尽くすことができました。クラスメイトとの交流をより深めることができ、心躍るような体験であったことを、今でも鮮やかに覚えています。

九月の文化祭では、クラス一丸となって最高のステージを作りあげることができました。夏休み前から準備を進め、時には壁に直面することもありましたが、仲間と試行錯誤を繰り返し、乗り越えることができました。クラスの出し物が完成した時の達成感は忘れられません。

そして、二年次の十一月には待ちに待った三泊四日の九州方面への修学旅行がありました。友達とサンタクロースの帽子を被って周ったハウステンボスは光り輝くイルミネーションが幻想的で目に焼き付きました。また、この修学旅行の本当の意味は平和学習にありました。長崎原爆資料館では、被爆当時の写真や遺品の見学、被爆体験者の方から貴重なお話を拝聴いたしました。教科書の写真や映像からでは得られない重みがあり、原子爆弾の脅威を改めて実感しました。この修学旅行では、仲間と一生の思い出を作るとともに、「平和は当たり前ではない」という極めて大切なことを再認識することができ、貴重な経験となりました。

修学旅行をはじめとする学校行事へ向けて、先生方にも数多くの準備をしていただきました。先生方のご協力のおかげで、私たちは人生において唯一無二の思い出をたくさんの仲間とともに作ることができました。各学校行事を計画して下さった先生方には心より感謝申し上げます。

また、卒業の日が近づくにつれ、この三年間を振り返る時間が多くなり、様々な場面が懐

かしく蘇ってきます。その中でも特に心に残っているのは、生徒会役員としての活動です。私は小学生時代から継続してクラスの代表や児童会役員として活動していました。この経験を活かし、時には表に立って、時には陰ながら支えることで学校をより良くしたいと考え、一・二年次には会計、三年次には書記として務めてきました。学校行事の運営において、二年次の文化祭では、本校初めての試みである「中夜祭」を開催しました。私は当日、「中夜祭」の司会を務めさせていただきました。初めての企画ゆえに不安もありましたが、参加してくださった方々が一体となって盛り上がる姿を見た瞬間、これまでの苦勞が報われたような強い達成感と生徒会役員としての活動のやりがいを心から感じることができました。しかし、障壁にぶつかることも多々あり、心が折れてしまうこともありました。そうした状況では、いつも誰かが支えてくれました。今、思い返してみると、私はみんなを支えたいと感じていたのにもかかわらず、生徒会長をはじめとする生徒会のメンバー、友達や先生方、家では家族に支えられて活動を続けることができたと実感しました。生徒会の一員として過ごしてきた三年間で、人間として大きく成長することができたと感じています。感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、仲間の集大成から元気をもらうこともありました。部活動でたゆまぬ努力をし、限界を超えて走り抜けた皆さん。希望する進路に向かって一心不乱で勉学に励んだ皆さん。真摯に努力し続けたその姿勢に、心から尊敬しています。これまでの頑張り決して色褪せません。これからも、その誇りを胸に、輝き続けてください。本当にお疲れ様でした。

こうして今壇上に立つと、改めて卒業への実感が湧いてきました。三年間、充実した華やかな日々を送ることができ、大切な友達と出会うことができ、本日無事に卒業することができるのは、私たちに関わってくださった皆様のご支援と温かいお力添えのおかげです。本当にありがとうございました。

今の世界は、大国間の緊張や貿易摩擦、局地的な紛争が続く中、国際秩序が揺らぐ中で分断と対立が目立つ状況にあります。私たちは修学旅行の平和学習で「平和は当たり前ではない」ということを学ぶとともに、異なる文化・価値感を持つ人々が互いを認め合い、共に生きる「共生」の大切さを深く刻み込んできました。この「共生」の精神こそが、今の世界に最も必要な架け橋だと信じています。異なる声に耳を傾け、対話を通じて理解を深め、「共生」の輪を広げていくこと。それが「明朗・真摯・友愛」の校風のもと学んできた私たちの使命です。私たちは、世界と日本の架け橋となることを誓います。

最後になりましたが、今までお世話になりました佐久間校長先生をはじめとする多くの先生方、学校関係者の方々に感謝申し上げます。そして、「私たちをいつも一番近くで支えてくださった家族の皆様にも心から感謝申し上げます。

これからの母校のさらなる発展を心よりお祈り申し上げ、答辞といたします。

令和8年3月1日 普通科卒業生代表